

世界と日本 有機農業の取組面積

世界では、欧米を中心とした有機食品市場の広がりに伴い、2018年には、71.5百万ha、全耕地面積の約1.5%で有機農業が行われている。これは、1999年から比べると約6.5倍の取組面積の拡大である。欧州諸国での拡大が高い一方、アメリカや中国は低く1%に満たない。

わが国では、2009年から2018年の間に有機農業の取組面積は45%、そのうち国際的に行われている水準を満たす「有機JAS認証を取得している農地」も20%増加しているが、後者は耕地面積の0.2%の約11千haに過ぎない。政府は2050年までにオーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）への拡大を目標に上げている。

世界の有機農業では、田畑や樹園地は安定的に面積が拡大しており、近年永年草地の拡大が顕著である。一方、わが国では欧米に比べて田畑の割合が高く、草地の割合が低く、茶畑が13%を占め、近年その面積が大きく拡大している。

2018年度に国内で有機JAS認証を取得した農産物は年間約7万トンで、うち野菜が66%、米は12%であるが、国内の農産物総生産量のうち有機農産物が占める割合は、野菜は約0.4%、米や麦、果実は0.1%程度に対し、茶は6%を超え、大豆も0.54%となっている。海外から日本に輸入される有機農産物は年間約5万トン（国内格付け数量の約7割）で、大豆と果実が過半を占めている。

（有機農業をめぐる情勢 令和2年9月 農業環境対策課） (K. O)

表-1 世界の有機農業の取組面積（2018年）

国名	有機農業面積千ha	耕地面積に占める%	有機農業面積に対する地目別%（2017年 ²⁾ ）				
			田	普通畑	樹園地	茶畑	草地
イタリア	1,958	15.8	0.1	45	25	—	29
ドイツ	1,521	9.1	—	41	1	—	57
フランス	2,035	7.3	0.01	54	7	—	39
アメリカ	2,023	0.6	0.1	49	2	—	48
日本	10,8 ¹⁾	0.2	27	47	4	13	8

1) 有機JASを取得している面積のみ計上。2) アメリカは2016年のデータ。農業環境対策課作成から引用。

表-2 有機JAS認証取得農産物の格付状況

区分	総生産量(t)	格付け数量(t)	有機JASの割合 [*]	有機農産物の区分別割合
野菜	11,306,000	45,839	0.41%	66.1%
果実	2,833,000	2,805	0.10%	4.0%
米	8,208,000	8,635	0.11%	12.40%
麦	940,000	766	0.08%	1.10%
大豆	211,000	1,143	0.54%	1.60%
緑茶（荒茶）	815,000	4,970	6.10%	7.20%

^{*} 各区分における国内総生産量に対する有機JAS格付け数量の割合